

# 学習方法の累積的訓練はどのようにすすめるべきか

足利市立梁田小学校

## I 主題設定の意図と目的

### 1. 主題設定の意図

主体的学習態度にかかわる問題は、古くて新しい問題である。

ここに、本校として「古くて新しい問題」として意味づけた背景はいまだに児童の主体的な学習態度の出現を見ず、古くより叫ばれながらもその達成を見ることのできない今日の課題があるととらえたためである。

ちなみに、本校児童の実態を見ると、次のような点があげられる。

- (1) 積極性に欠け、学習時における発表力が乏しい。
- (2) 学習に対する意欲に欠ける。
- (3) 学習場面はもちろん生活場面をも含めて、創意工夫しようとする態度が不足している。
- (4) 直面した課題に対して、持続性をもってそれを解決していこうとする課題解決への意志に欠ける。

以上のような児童の実態から、本校の四つの教育目標の一つに「力いっぱい学習する子」があげられたわけである。教育目標の達成は、各教科・道徳・特別活動等、教育活動の全領域の場で考えられるわけであるが、学習活動に直接かかわるものとしてとりあげた「力いっぱい学習する子」は、特に「主体的態度の育成」をめざすものと受けとめている。すなわち、本校の児童にとって最も欠けているものは、学習に対し、主体的にとりくもうとする態度であろうと結論づけたわけである。

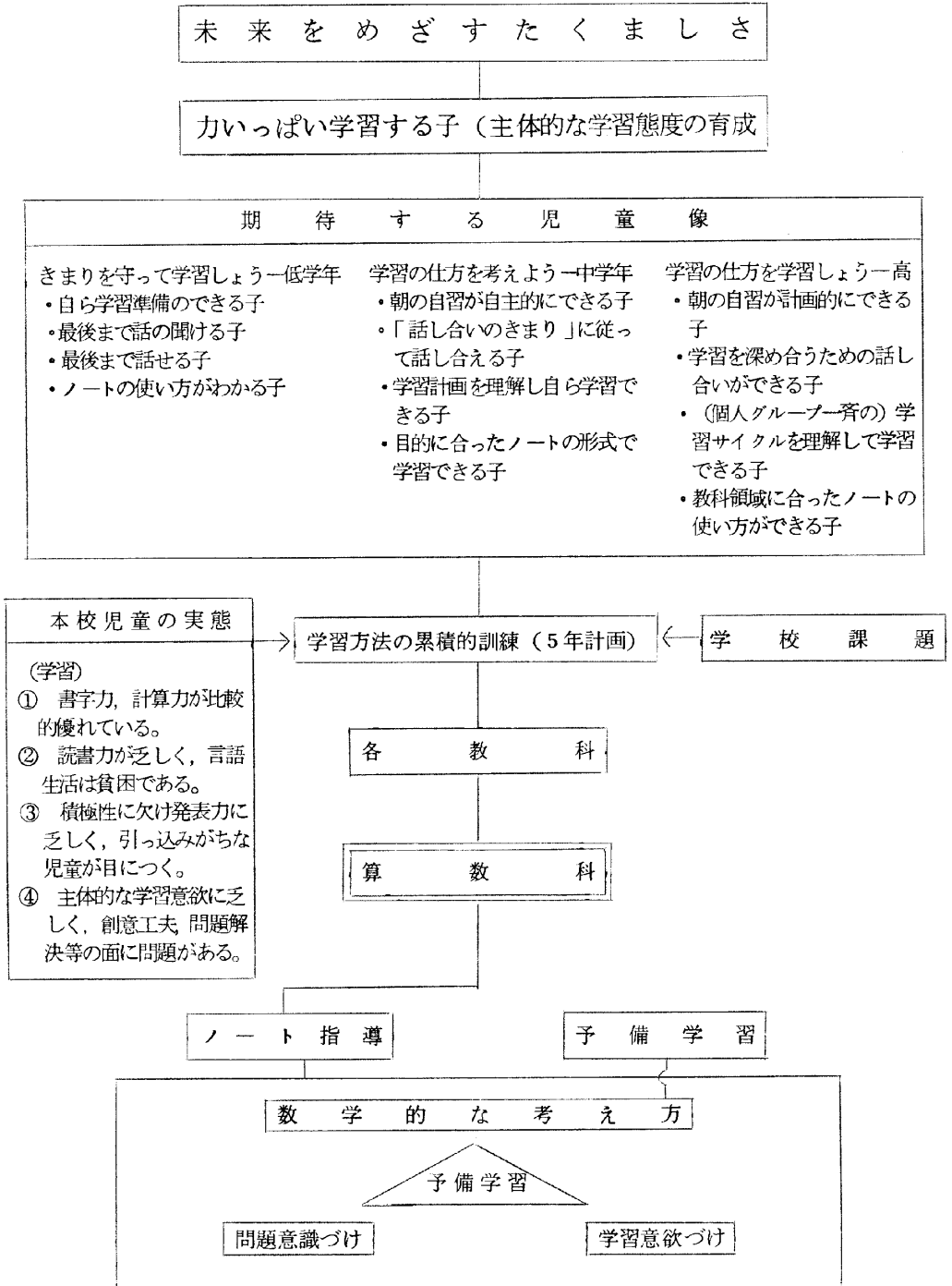
### 2. 研究の目的

本校児童の実態(1)～(4)の原因を教師側と児童側の両面より探してみたが、原因と思われる問題が多出したことはいうまでもない。中でも、教師側として、「今までの指導方法には、きわめて具体性に欠ける面が見られた。」とか「学習方法について十分な指導がなされていなかった。」と言うようなことがあげられた。

これらのことを総括し、次のような見解に到達した。すなわち、今後、われわれは指導法の研究と同時に、児童にどう学習させるかという学習法の研究へと進まねばならないのではないだろうか。と言うことになったわけである。換言すれば、今後「学習方法の訓練」を重視する必要があると結論づけられたわけである。そして、さらにその焦点化をはかり「学習方法の累積的訓練はどのようにすすめるべきか」に至ったわけである。

## Ⅱ 学校課題解決基本構想

### 学校課題解決基本構想



### Ⅲ 第1年次の研究

#### 1. 副主題

—— 特に算数科におけるノート指導をとおして ——

日常の教師の観察、および本校として計画的に実施している学力検査の結果から上記のサブテーマを設定した。

特に、児童の実態を算数科に焦点化してみると、そこには次のような児童の姿が見られた。

- 板書をそっくりノートするだけの児童。
- 板書をそっくりノートすることさえできない児童。
- 計算をは紙やノートの端、あるいは下敷にする児童。
- ノートに計算するが式と答えだけ残して計算を消してしまう児童。
- 完成したものだけをノートに残す児童。
- 間違いを消しゴムで消してしまう児童。
- ノートの形状がさまざまなものを使用する児童。
- 鉛筆の硬さが不適切と思われる児童。
- 使用鉛筆が黒一色の児童。

ノートは教師側に立ってみると、児童ひとりひとりの理解度を評価し、各児の思考過程を握し、個別指導をするための重要な手がかりとなる。そういった意味から、上記の実態の解消を図りながら次の点について研究をすすめることにした。

- (1) 自分自身の思考の変容を、ノートを通して明確に理解できるようにさせ、そこから「学習の仕方」をわからせる。同時に教師側からは、個々の思考過程がチェックできるようなノートの使用法。
- (2) 課せられた問題を解決するために、ノートを通して既習内容を想起し、ノートに記録された既習の考え方等を用いて問題の解決が図れるようなノートの活用法。

#### 2 仮説

ノート指導を(ア)記録の仕方 (イ)活用の仕方の二面から指導することにより、児童は次のA・B二態を含んだ形で学習方法を理解する。

##### (ア) 記録の仕方

- ・どのように記録すればよいかを指導する。(形式面)
- ・何を記録すればよいかを指導する。(内容面)

##### (イ) 活用の仕方

- ・記録されている既習内容のうち、直面している課題を解決するために利用できるものはないか想起させる。
- ・自分の考え、グループの考え、全体のまとめで、どこが同じで、どこが違うかを弁別させる。

A 学習のサイクル(個人、グループ、一斉)を理解し、見やすく、活用度の高いノートを通して学習方法を身につける。

B 自分の思考の変容を理解し、既習内容を生かした課題解決法(学習方法)を身につける。

### 3. 研究の実際

#### (1) ノート指導についての考え方

「学習のしかたを学習する」それは、「最適の条件」と「適切に学習」とは、具体的にどういふことなのだろうか、と考えねばならないことだと思ふ。そこで本校では、学習のしかたを身につけさせるための訓練として、基礎的・基本的と思われるものを取りあげてみた。それがノート指導ではなかろうかと仮定したわけである。さらに、ノート指導は、それ自体主体的学習態度を培う要素を包含しているとも考えた。

「考える」とは、主体的活動そのものである。特に、算数科においては、各自の「考え方」を引き出し、定着を図るうえで重要な位置をしめるのがノートであり、記録することそれ自体も「考えること」と同様に主体的な活動と言えよう。

仮に、学習が具体物操作や話し合いだけで進行したとすると、自分の考えを述べる機会のない児童が増加し、自分のアイディアが生かされないことにもなる。そういうことの繰り返しでは、発表する機会のない児童のアイディアは次第に沈んでしまう。また、発言力のある児童でも、その場の思いつきの考えだけで学習が進むことになれば、その児童の考えは、整理されたものとならないであろう。

ノートは、児童側に立つと、自分の考えを写す鏡であり、他人の考えと比べる場であり、個人のあるいは集団の考えをまとめる場であると考えたい。一方、教師側からみると、ノートは、個々の児童の思考過程をみるためのものであり、次の指導へのカルテでもあると考えた。

#### (2) 実践例

5 2年度に実施した研究授業の一例をあげてノート指導のし方について述べてみる。

1 年 10 より大きいかず

① 題目 10 より大きいかず

② 本時の目標

○ 19までの数について「10のまとまりが1こと、1が○個」というように、分けて数えたり、数図や数字に表すことができるようにする。

③ 授業の観点

○ 単に数字を読んだり、書いたりさせるのではなく、具体物の操作を通して、十進位取り記数法の意味をわからせることができたか。

○ ノート指導としては、自分の考えがどう変わってきたか、その過程をはっきりさせながら目標にせまりたい。そのために、個人思考から集団思考への変化の様子を記録させることが効果的であると考えた。

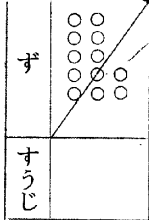
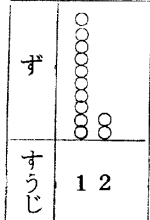
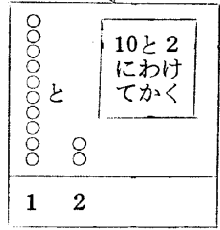
個人 ————— 集団 ————— 個人

(工夫して並べる)

最適な考え方がわかる

(自分の考えを訂正し高めていく)

④ 展開

学 習 活 動	児 童 の 反 応 と ノ ー ト の 例
<p>1. 12個のおはじきを数えやすいように工夫してならべる。</p> <p>(1) ならべてみる。</p> <p>(2) 図にかく。</p> <p>(3) 発表する。</p> <p>(4) 数えやすいならべ方を見つける。</p> <p>(5) 図を修正し、数字で表す。</p> <p>2. 14個のおはじきを10と4に分けた図と数字をかく。</p> <p>3. 問題をする。(進級式にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ピンクの問題用紙 おはじきの数を図や数字でかく。</li> <li>○ 白色の問題用紙 数字18を図に表す。</li> <li>○ 黄色の問題用紙           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 13個のおはじきを図や数字でかく。</li> <li>・ 数詞を数字に直す。</li> </ul> </li> </ul> <p>4. まとめをする。</p> <p>5. 19までの数字を読む。</p> <p>6. 次時の予告をきく。</p>	<p>IN児のノート (わくは印刷しておいた)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>初めのノート</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="text-align: center;">  <p>話し合い後のノート</p> </div> </div> <p>児童の大部分は5と7に分けたが、数えやすいという点から見たとき、もっと見やすい・数えやすい並べ方が10と2の分け方であることに気づいて直した例である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ この問題で理解度を見る。</li> <li>Yesの児童は、練習問題へ</li> <li>Noの児童は補充指導を受けた後に練習問題に進む。</li> </ul> <p>まちがいは赤線や赤字で記入させ、自分の考えを消さないように指導を徹底する。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>

どんな考えでも、問題解決にあたって、まず自分の考えを持たせること。これをもとに、よりよい解法を見つけ出していくこと。というねらいが達成できたのではないかと思っている。

## 4. 昭和52年度のまとめ

### (1) ノートについて

- 学年始めに、低・中・高別に研究し、形式を統一し、全児童に同じノートを使用させた。
- 記入の方法についても最小限の約束を学年に応じて決めた。

その結果

- ノートは、図・表・数直線等を書くのに便利な方眼ノートを使用することにした。
- 月日、学校での学習、家庭での学習の区別、自分の考えを記録に残すこと、計算や図等問題解決の経過をそのまま残す。

訂正は、赤で記入する。作業用紙もノートとみなし、ノートに貼付することにした。

以上のことがらは、ほぼ定着してきた。

### (2) 内容について

- 個人の考えを大切にるようにしてきた結果、多様な考えを出せるようになってきた。個々の考えはまだ深まりのないものが多いが、本校の児童にとっては一大進歩であるとみている。
- 個人の考えを小集団の中で述べあいながら、個人の考えを修正し、深め合ってまとめることができるようになってきた児童がふえてきた。しかし、それはまだ少数の児童であり、受身的な学習態度から脱しきれない児童もいる。
- ノートの活用の仕方についても以前とちがった様子が見うけられるようになってきた。板書されたものを書き写し、計算をし、解答を書くだけの活用法で、使用後に自分からノートを見直すことが少なかったけれども、現在は、大事に扱う者が増してきた。これは、ノートの中に自分の知恵や、苦勞して解決した喜びが集められているものであると思うようになったからであろうと考えている。

新しい単元に進んだとき、既習教材の中に似た問題がなかったか探す態度が見られるのも、既習のこの考え方を使えば解決できるのではないかとノートをめくっている児童の姿が見られるようになった。これもノートを活用するようになった表れであろう。

### (3) 問題として残されたもの

- 問題と思われる児童の様子もたくさん見うけられるが、長年かけて育てられてきた児童の生活を1年間で変えようとするとう無理が生じる。今後も継続して、長時間かけて指導していくことが大切であると考えている。
- 問題点の根本は、児童の学習意欲をいかにして盛り上げていくか、1単位時間、児童の興味をどうやって湧き立たせるか、である。児童が問題を解決していくためには、事前の心の準備がされていなければならないのではないだろうか、ということになった。
- 学習内容は、児童にとって適度の難易さをもった問題を与え、自分で具体物を操作したり、図をかいたりして、時間をかけて考えれば解決できそうな内容を事前に学習問題として与え解決させる。この解決の仕方が学習の中で生かされる。

## Ⅳ 第2年次の研究

### 1. 副主題

——特に算数科における予備学習をふまえたノート指導のあり方——

第1年次においては、学習方法の訓練にかかわる最も基礎的、基本的と思われるノートに関する問題に取り組んだが、主体的学習態度の育成を前提としたとき、次に考えられるのは学習意欲に関する問題ではなからうか。

主体的に学習にとり組ませ、力いっぱい学習させるためには、児童自身学習に対し意欲的であることが必要条件であろう。この意欲を喚起させるためには、本時の学習をすすめるにあたって事前にその学習の予告をし、課題意識を持たせておくことが必要だと考えられる。

そこで、1年次に加えて、課題意識を持たせるための予備学習についての研究を深めることにした。

特に予備学習とノート指導とに焦点をあてることにし、予備学習の方法分析（課題をどうやってくるかという学習手順）とノートの使い方について第一の関連を見ることとした。続いて、個人学習の訓練としての予備学習が、方法分析をふまえてノート（作業用紙を含む）に記録されるわけであるが、それを集団の場でどう生かし、個人思考の記録と合わせて集団思考をどう記録するかを第二の関連と見ることにした。

予備学習について明らかにしたい点をあげることにする。

- (1) 学習への意欲を喚起させるためには、どのような点に留意して予備学習の課題内容を構成したらよいか。
- (2) 強い可能性と弱いざ折感との間で葛藤させ、それをばねにして知的好奇心を誘い出せるような予備学習の方法分析は、教師の介入をどの程度におさえるべきか。
- (3) 個々の児童の予備学習結果を事前にチェックし予備学習を授業の導入部分でう生かし、終末部分に至るまでの展開の中にどう位置づけるか。

### 2 仮 設

ノート指導に加えて予備学習を導入することにより、児童は次のように変容する。

- A 前時に、本時の導入時の課題を知り、個人学習の段階で多少のざ折感はあるとしても、学習方法にしたがって自力で課題解決を試みるため、一層の課題意識をもち本時への学習意欲をみせる。
- B 導入時より終末時に至るまで、予備学習で構成された課題意識が持続し、個人の学習はもちろんグループ学習、一斉学習においても主体的なとりくみをみせる。

### 3. 研究の実際

#### (1) 予備学習についての考え方

児童全員が学習に参加すること。集団思考の場において、児童ひとりひとりが考えをのべ合い、主体的な学習態度で参加するようになることをねらっている。このためには、学習問題に対して問題意識をもって、意欲的に学習にとりくむようにさせなければならない。

そこで、いわゆる「宿題」とはちがった意味の学習「予備学習」を与えることにした。

本年度当初は、次のように考えて出発した。

1. 本時の学習に対して興味をもたせるものであること。
2. 本時の学習の基礎となるものであること。
3. 本時の学習問題に対して、児童はどのような考え方をしているかが見られるもの。  
予備学習をこのようにおさえおけば、授業は児童中心の生き生きとした学習になるものと考えた。しかし再度研究を重ね次のような観点を加えた。
4. 個人の考えを確立させるためのものであること。
5. 能力に応じて解決できるものであること。
6. 内容は次時の学習内容と直結したもので既習の学習を生かして解決できるもの  
また同和教育の面からも検討を加えた。指導のための資料No11「学校における同和教育の推進」の指導上の留意事項1～9を考慮して指導に当たるが、特に予備学習の問題作成、実施に当たっては、(1) 指導のねらいや内容等が、児童生徒の実態に即しているか。(7) 問題意識をもって学習にとりくめる問題であるか。の二つの点を考慮することにした。

#### (2) 実践例

2年 もののかたち

##### ① 題目 かたちづくり

##### ② 目標

- 直方体の6つの面を分解し、元の立体との関係から、面の数・面の形・面と面の位置関係を知り6つの面を再構成して直方体をつくらることができる。

##### ③ 授業の観点

具体物（石けん箱・化粧品の箱等）を切り開いて、展開図から学習に入る方法も考えられるが、組立式になっているため、展開図が複雑になっているものもあるので、箱のまま各面を別紙に写しとって、6枚の長方形を使って学習を展開するが無理がなかったか。

##### ④ 予備学習問題とその意図

予備学習問題

はこの形のまわりに色がようしをはります。どんな形に切ってはればよいでしょう。きりとってきましょう。



### 意図

色画用紙に写しとった直方体の各面を分類・整理することによって面の数・面の形・面の位置関係に着目させたい。

さらに、組み立てて立体を構成させるが、その時セロテープで止める位置によっていろいろな展開図ができることが予想される。これは直方体の理解のうえからも大切なことと考えている。

#### ⑤ 児童のやってきた予備学習の活用の仕方

児童が切りとってきた6枚の長方形は、写しとる。切りとるという技術面での問題から、その長方形はあまり正確なものと言えないものも多かったが、それでも、2枚ずつ合同な長方形があると判別できるものであったので、学習に利用できると判断した。

また、予備学習用紙にはりつけてきたその様子を見ると、下の1図、2図、のように、長方形の形によって、分類、整理をしてきている者が大部分であった。したがって、この長方形の分類整理にはあまり時間をかける必要はないと思われる。ばらばらにはりつけてきた児童は、だれであるかもはっきりしてきたので巡視して見なければならぬ児童もつかむことができた。

図3のように、切りとった長方形を展開した時の形を考えて、はりつけてきた児童も4名ほどいた。学習の中頃で6枚の長方形を組み合わせた、切り開いて展開図の形を作ったりする。学習場面で活躍させることができる児童である。

以上のように事前に調べておくことによって、この学習に対して児童がどのように考えているのかがわかり、これが学習を展開していくときに利用できる。つまり、個々の児童に合った学習を展開することができるのである。

また、児童の側から見れば、具体物を操作する（この場合は面を写しとる）ことは、だれにもできることであるから、学習にとりくみやすいと言えるのではないだろうか。そのうえ、次の学習内容も予想がたち、興味をそそることにもなるであろう。前述のように、児童によっては、切りとって、はりつける段階で、形も、大きさも同じ長方形が2まいずつあるということに気がついたり、面の位置関係に気づいたり、というように能力に応じた学習をしていくので、しかも、それが学習の中で取り上げられるので、児童たちは発見につとめたり、工夫をこらしたりするようになるとうことができよう。

本時の場合も以上のような点から眺めたとき、学習が生き生きとできそうだ。と予想できたのである。

図 1.

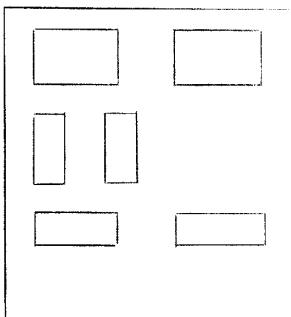


図 2.

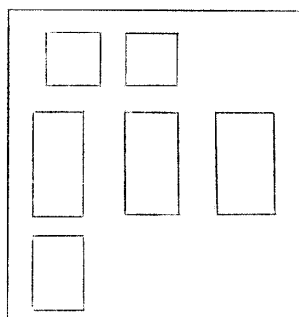
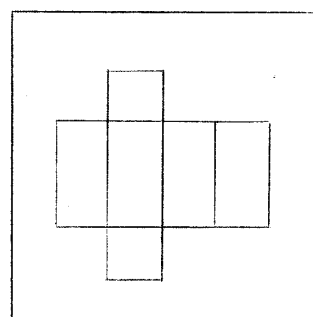
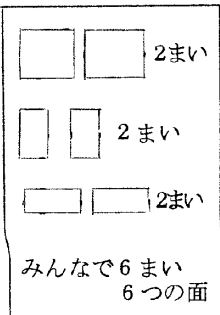
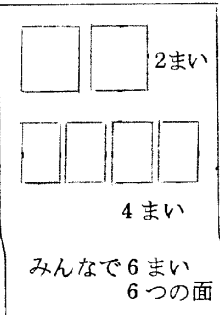


図 3.



⑥ 展開

学 習 活 動	児 童 の 反 応 ( 発 言 )
<p>1. 予備学習で切ってきた色画用紙を形によって分類し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんな長方形の場合           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ長方形が2ずつある。</li> </ul> </li> <li>○ 底面が正方形の場合           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ正方形が2つある。</li> <li>・ 同じ長方形が4つある。</li> </ul> </li> <li>○ どれも、6つの四角形がある。</li> </ul> <p>2. 発表をきいて、自分の色画用紙ので確認する。</p> <p>3. 2つの同じ長方形や正方形は箱のどこにあるのか、色画用紙を当てて確認する。 (色画用紙の過不足のある児童はここで調節する。)</p> <p>4. 色画用紙を組み合わせて、直方体の展開図をつくる。</p> <p>5. とめたセロテープを1か所から切り展開図の形に切り開く。</p> <p>6. 展開図で合同な長方形に着色し、箱と対比しながら位置関係を確かめる。</p> <p>7. 辺の長さに目をつけて、辺の位置関係を確かめる。</p> <p>8. まとめ</p> <p>9. 次時の予備学習をきく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">予備学習問題</p> <p>さいころの形のはこのまわりに色画用紙をはります。どんな形に切ってくればよいでしょう。</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">T児・S児の発表</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">K児・A児の発表</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">OHPで白模造紙に投影させ、マジックで写しとってやる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 過不足のある児童は個別指導を考えていたが、発表をきいて、すぐに作り出していたり、余分な長方形は机の中にしまったりしていて、ほとんど指導する必要がなかった。</li> <li>○ 箱の面に色画用紙を当てながら直方体の形にセロテープでとめていたため、立体の組み立てには問題がなかった。</li> <li>○ (さまざまな展開図ができた。) 開いた図はいくつもできる。</li> <li>○ 一つおきと同じ長方形がならんでいる。</li> <li>○ とさりにはちがう長方形がくる。</li> <li>○ 合わさる面の、辺の長さは同じになっている。</li> <li>○ 向かいあう辺はみんな同じ長さ、面も同じ。</li> <li>○ かならず長方形がある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ああ、こんどはみんな正方形だ。</li> <li>○ 正方形が6枚ある。</li> </ul>

○ 予想どおり活発な授業であった。次時の予備学習問題を与えたとき、本時の学習内容と比べて相違点や同じ点をつぶやいた子が多かった。本時の予備学習が生かされた例だと思う。

#### 4. 53年度のまとめ

本年度の研究の重点であった予備学習中心にまとめてみた。

まず「学習への意欲づけ」「問題意識づけ」等、次時学習への足がかりを根本において、目標分析児童の実態は握・教材・教具の検討等の研究を重ねて、予備学習問題を作り与えてきた。

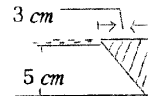
その結果、すべてに満足する予備学習問題の作成はなかなかむずかしく、「最適な予備学習問題はこれだ」と言いきれるまでには至らない。

最適な予備学習とまではいかないが、予備学習を与えた目的がほぼ達成できたと思われる例を低中・高別に挙げてみたい。

##### ○ 事例1. (6学年)

〔解法を自分なりに見つけ出し、学習に生かした予備学習問題〕

右のようなきりで、厚さ10cmの板に5cmの深さの穴をあけた。  
そこにできた穴はどんな形だろうか。



この問題を児童は具体的にとらえ、実際に厚紙で錐の形を作り、砂の中で回転させたり、または、やわらかい土やうどん粉の中で回転させてできた凹部から、頂点や辺が回転してできた軌跡を考えた児童が多勢いた。これは、本時の学習内容だけでなく、この後の学習についても、思考を助けることができた予備学習問題である。

この単元の学習が生きてきたのも予備学習の問題がよかったためであろう。

##### ○ 事例2 (4学年)

〔次時の学習のヒントとなった予備学習問題〕

10枚を1たばにしばった画用紙のたばが9たばあります。1人に3たばずつ分けると何人に分けられますか。

この問題に対して、直ちに立式し、解答した者もいるが、図をかいて考えた児童もあり、全員が予備学習をやってきた。児童にとっては、さしてむずかしくない問題であったように思う。

本時の「(何+) ÷ (何+)」の計算の学習への足がかりをつくる意味においては有効であったように思う。この場合、束ねなければ、 $90 \div 30$ の本時の学習内容となり、思考を転換すれば  $90 \div 30 = 9 \div 3$  となる。この見方を児童に気づかせることは容易であった。これは、学び方学習の中でも重要なことである。児童にとってよい学習をさせることができたのではないかと考えている。

○ 事例3 (2学年)

[問題意識をもたせた予備学習問題]

このふんぴつで

(1) がっこうのつくえのよこのながさ ぶん

(2) いえのつくえのよこのながさ ぶん

(3) だから のつくえが ぶんながい。

※ 使ったえんぴつの長さを写させた。

この問題は、1年生のときの学習内容をもとにして作った予備学習問題である。

測定結果を発表させ、その結果を友だちと比較させることによって、測定値がまちまちであり、比較できない。それはなぜか、ということから本時の普通単位の必要性、単位の作成へと進ませた。予備学習用紙に測定に使った鉛筆の長さを写させておいたことによって、比較できない原因が測定単位にあることも容易に気づかせることもできた。

児童は最後までとりくんでいた。

この学習を「かさ」の学習のときにも生かすことができた。それは、予備学習から発し、各自の考えや学習の結果をノートさせることによって、確かなものにするのができたからではないかと思う。

先にあげた予備学習問題について考察してみると、次のようにまとめることができる。

- (1) 問題の難易さの面からみると、いずれも易の部に属する問題ではないかと思う。既習の知識・技能・思考法を用いれば解決できる内容である。そして、予備学習問題は、児童にとってやさしい問題であっても、その考え方、あるいは解決の方法は本時の学習に使えるか、またはヒントとなるものであること。つまり、新しい問題に接したとき、予備学習の内容が生きてくるようなものがのぞましいと思われる。
- (2) 学習に対する意欲づけという面からみると、自分で具体物を操作したり、図をかいたりして考えればだれもができる。予備学習問題の大事な条件のひとつと言えるように思う。予備学習を自力でやれたという状態から本時の学習をスタートさせることによって、学習に積極的にとりくむ(この点が準備テストと異なる点である。)
- (3) 授業への生かしがた。予備学習を授業に生かすためには、予備学習をどのようにやってきたかを授業前に教師は把握していなければならない。そこで本校では、予備学習用紙を授業開始前、(朝のうち)に提出させ、目を通しておくことにしている。これによって、ひとりひとりの考え方をつかみ、授業展開計画の中に児童の活躍場面を位置づけることができるのである。普段発表回数の少ない者、算数に自信がもてない者等の児童に活躍の場を与えることができるようになった。また、予備学習問題の解答の傾向をつかんでおくことによって、個別学習にするか、一斉学習にするか、ねらいをどうするか等学習指導案がかなり明確になってくる。

- このように、予備学習を与えることにより、授業は改善され、児童ひとりひとりが学習に対する喜びをいさぐようになり、序々ではあるが児童が、主体的に学習するように変容していくものと考えている。

今後さらに実践を通して研究を進め、学校課題解決基本構想に示した、「期待する児童像」をめざして伸ばしていきたいと考えている。そのためには次のような点について今後研究していく必要があると考えている。

- (1) 目標のとらえ方→実態をとらえての具体目標を提示する。
- (2) 教材のとらえ方→児童側に立った教材の選定に留意する。
- (3) 予備学習の構造化をはかる。

おわりに

学習方法の累積的訓練を5年計画で取りくみ、各教科を通してすすめてきたが、第1年次、第2年次は特に算数科に主力をそそいで研究をすすめてきた。第3年次は主力は他教科となるが、今後もいっそう研究を深め学校課題解決にせまっていきたいと考えている。

なお、この研究を進めるにあたって、足利市教育委員会指導主事吉田哲也先生に2年間多大なご指導、ご助言をいただいたことを深く感謝いたしております。

(文責 秋山絢子)

### 評

本校は、児童の実態をふまえ、教育目標に「力いっぱい学習する子」をあげ「主体的学習態度の育成」の具現化を目指して、昭和52年度より5か年計画で学校課題「学習方法の累積的訓練をどのようにすすめたらよいか」を設け研究を進めています。本稿は、この2か年間の算数科を中心にした研究実践の歩みをまとめられたものです。ノート指導については、「教科書が子どもたちにとって一般的な書物であるのに対して、ノートはその子にとって個性的な意味を持ち、その子が自らの力で生みだしていく書物である」といわれる通り、児童が自らの力で生みだすノートであれば、その中に考える子、すなわち考えたことをノートに記し、それをもとに考えをさらに伸ばしていく子どもが育成されると思います。したがって、考える力、新しいものを考えだす力を重視するノート指導の研究は貴重なものです。また、数学的な考え方の育成・問題の意識づけ・学習意欲の喚起という点をふまえた予備学習課題の研究についても、「子どもは本来、未知のものを知ろうとする力を持ち、これを探究し、創造工夫しようとしている。その好奇心が考える行動・思考活動につながる」といわれていますが、知的好奇心を誘発するような予備学習の方法・分析の価値を大いに認めたいと考えます。今後も、本校の長期計画に基づいた累積的な研究実践の成果を期待いたします。